西台市南小学校 学校だより 責任 田中 秀和

西南小の風

だれかのために じぶんのために いっしょうけんめい

団結の力

令和6年1月12日
第37号

後期後半が始まる集会では、地震のことに触れずにはいられませんでした。備えるべき事や災害時にどのように行動するかを知った上の「正しく怖がる」ことが命を守るのだと言いました。特に登下校中に地震があったらどうするかは家族と改めて確認が必要だということと、登下校中に「落ちてこない・倒れてこない・移動してこない」安全な避難場所を探しておくように伝えています。

一方で、学校にいるときはとにかく先生の指示に従うのだよとビシッと言った手前、私たちは対応をしっかりと再確認しています。八年前の熊本地震を思い出しつつ、防災研修を行いました。実は、すでに職員の約三分の一は、学校職員として熊本地震を経験しておりません。だから「熊本地震の教訓」と言いつつも、何もしなければ当然薄れていき「教訓」とはならないのです。熊本地震も今回の能登半島地震も阪神淡路大震災も学校課業時間外のことでした。（課業中は東日本大震災だけです）熊本地震当時は、課業中の地震を想定した学校の対応を、他自治体の例を参考に考えたものです。熊本地震までは、県下ほとんどの学校で、大地震を想定した防災マニュアルが明確ではなかったのです。ただ、マニュアルがあっても、それを頻繁に確認し、災害時に子どもの命を守るためのとるべき行動を、各々の校内での行動パターンや役割などを踏まえてシミュレーションしていなければ、もしもの場合の適切な対応は難しいでしょう。今回のＪＡＬと海保の航空機事故で、ＪＡＬのクルーは乗客三七九名全員を炎上する機体から無事脱出させ賞賛されましたが、あれこそ訓練の賜です。状況こそ違えども、八七〇人の子どもたちを守らねばならない私たちがそれだけの訓練が出来ているのかと考えると、正直不安です。だから、地震の教訓と↘

ＡＥＤ研修もしました

ともに子どもを守る緊張感や心構えをしっかりもてるよう、ことある毎に職員相互に声かけをしていくとともに、訓練を大事にしていきます。そうして、職員の更なる団結を育みます。

さて、子どもたちの団結も促していきます。今朝（十二日金曜）は、三年生の学年集会でした。「特に何か問題があって学年集会をするわけではないが、今後の生活に向けてとにかく気合いを入れて欲しい」という三年部からの鼻息の荒い依頼でした。私からは「四年生は高学年である。同じ目的をもってみんなで協力するという団結の姿勢をもって高学年として学校を引っ張ってほしい」と大きな声で話しました。（どうも私は最近勢いのみで話をする傾向があり、自省しています）その後、学年部職員から「次の学年に向けたゼロ学期」「聞く力・気づく力・動く力を持って欲しい」という熱い話がありました。子どもたちへの熱い思いが言葉にこめられていました。このように、大人が、子どもたちへの期待を激励も含めて伝えることはとても大切です。子どもたちはどの学年であっても、そうした思いをどうにかして受け止めよう応えようとしてくれます。

三年生の集会後、体育館には四年生が入ってきました。学年体育で二段跳びの講習会だそうです。特別講師として、かつてへたくそな縄跳びで子どもをしらけさせていた私のすぐ近くで三段跳びをしてキャーキャー言われていたＮ教頭が招かれていました。Ｎ教頭には恨みも何もありません。ただ、四年生が団結して、全員二段跳びができるようになったらすごいなと期待しているだけです。

本当です。

きっと全員二段跳びができる！　校長も本当はできる！